休戦ライン155マイル

写真で見る 38度線非武装地帯の自然

現代の秘境

東京都写真美術館　B1展示室

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
（JR線恵比寿駅東口より徒歩7分）TEL：03-3280-0099

2004.4.24(土)～5.16(日)

写真作家　**崔　秉　寛**（チェビョグァン）

開館時間：午前10時～午後6時
（入館は閉館の30分前まで）※木・金は午後8時まで開館
休 館 日：毎週月曜日（休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日）
入 場 料：一般＝500(400)円／学生・専門学校生＝400(320)円
中高生・65歳以上＝250(200)円（都内中学生は無料）
（）は20名以上の団体料金および東京都写真美術館友の会会員割引料金
主　　催：東京日韓親善協会連合会
共　　催：東京都写真美術館・在日本大韓民国民団東京地方本部
後　　援：外務省・東京都・駐日韓国大使館 韓国文化院・
韓国地方自治団体国際化財団東京事務所
(株)NHKエンタープライズ21・(社)日本写真家協会
(社)日本広告写真家協会・(社)日本写真協会
協　　賛：(株)ニコン・コダック(株)・(株)ロッテ・(株)東京サマーランド
助　　成：日韓文化交流基金・国際交流基金
協　　力：大韓航空・(株)フレームマン・(株)写真弘社
お問合せ：東京日韓親善協会連合会　TEL：03-3503-4639

休戦ライン155マイル
写真で見る 38度線非武装地帯の自然

現代の秘境

写真作家
崔　秉　寛
（チェビョグァン）

■プロフィール

崔秉寛は韓国仁川ソレ浦に生まれ育ちました。自分の人生、私たちの親たち、長い間仁川の干潟、塩田、消え行く故郷の自然を美しい写真におさめてきました。特に建国・建軍50周年に国防部・陸軍本部嘱託作家に任命され民間人として初めて休戦ライン155マイルを2年間（'97～'98）生命の危険をかえりみず徒歩で横断し写真活動行い、歴史的な作品として残しました。

その珠玉のような作品は1998年9月16日、ソウル戦争記念館において大統領を迎え展示した後、全国8大都市を巡回展示し、「回環と緊張そして期待の地、休戦ライン155マイル」作品集も出版しました。その功労により1999年には大統領表彰と陸軍参謀総長感謝牌を受けました。2001年2月6日には日本のNHKの番組「韓国の写真家崔秉寛」の題で放映されました。

新世界ギャラリー、東亜ギャラリー、陸軍士官学校、仁川広域史庁特別招待個展をはじめ、18回の個展と写真集は「魂の野花」（2000年、仁川広域市）他7冊があり、詩集として「眠りつきたい故郷」（1999年、カウス文化社）他1冊があります。2000年10月～2003年10月までの3年間、戦争が残した壮絶な悲劇の場である非武装地帯京義線鉄道・道路連結復元工事現場を渾身を込めて写真作業を行いました。この地に真の平和が訪れることを願う気持ちで「途切れた半世紀、つながる京義線平和・繁栄のシルクロード」写真作品集を出版することになりました。

写真家崔秉寛はベトナム戦争（1971～1972）に参戦し、1994年には「文芸韓国」に登壇した詩人でもあります。2002年には仁川広域市文化賞（美術部門）を受賞し、現在は非武装地帯の自然と仁川干潟に関し集中的な研究を行っております。

第一章　動植物の表情

韓半島の非武装地帯は世界で唯一残っている冷戦の現場です。南と北が互いに銃口を向け合って半世紀を過ごしているのです。その半世紀の時が流れる間、自然は自然の美しいままを守っていて、動植物も数多く貴重な種類が残っていました。非武装地帯で2年間撮影しながら感じたのは、この地から戦争は消えるべきであること、もう一つは、この地域をよく保存して、世界的な公園として造成していく。つまり非武装地帯の自然を公園化して、韓国人のみならず、世界中の人々がそこに行って研究したり、休息が出来るそういう空間にしていけたらと思いました。

第二章　38度線の緊張と平和

韓半島に戦争が起こってからもう半世紀が経ちました。これまで非武装地帯は人間が近づくことの出来ない地域でしたので、そこの自然はいかに保存されているのか、非武装地帯に鉄柵はどのように設置されているのか、戦争は何を残したのか、また韓国軍はそこをどのように守っているのかなどに興味をもっていたのです。その内容に沿って写真撮影を行いました。1996年、1年間の現場調査の後、1997年から1998年にかけて非武装地帯の将兵たちと生活を共にしながら休戦線155マイル、つまり254.9kmを3回徒歩で行き来し撮影を行いました。そこは南北が先鋭に対峙しているところですし、それから地形的にも危険な地域であります。また一般人は近づくことも許されていません。そのため自分も軍人の警護と案内を受けながら撮影を進めるしかなく、その点が非常に難しかったです。それから気候もあげられます。これらの地形と撮影が自由に出来ないというところ、また作家としては命を脅かされたこともありました。そして撮影機器が壊れるなどの困難のなかで3年間の撮影を完了させました。

第三章　山河、原野の四季　限られた人の生活風景

非武装地帯の近隣地域を「民統線（民間人統制線）」といいます。民間人を統制するところなのですが、そこで暮らしているのは「失郷民」。つまり、故郷が北朝鮮の方にある人々です。彼らは北に残してきた家族や先祖を訪ねられる統一の日だけを待ちこがれているために、そこを離れられずにいるのです。その望みのために民統線の村落を離れない人々が殆んどでしたけれども、その方々にお会いする度に、南北が一日でも早く和解して家族が自由に行き来し会える日が訪れることを、撮影をしながらも常に心のなかで祈りました。

企画趣旨

朝鮮半島が38度線によって分断されてから50年の歳月が経過しました。その長い年月によって、この38度線非武装地帯（縦幅4km：東西249km）に、寄しくも人跡未踏の秘境が生まれた。

四季折々に、今は稀にしかみることができない草花が咲き、絶滅に瀕してる野鳥が飛び交い、鹿や狸、狐などの動物が生息し、豊かな自然が命を謳歌する貴重な一帯となりました。

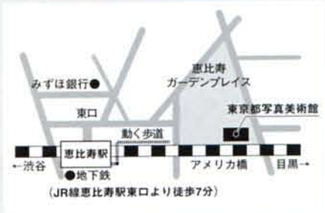
特に注目すべき点は、鶴などの渡り鳥が絶好の中継点としており、学術的にも重要な地帯になっていることです。

この非武装地帯に、韓国陸軍省の特に許されたカメラマン 崔秉寛氏が、1997年から3年間にわたって10万枚にもおよぶ写真を撮影しました、その中から約200点を厳選し、ここに展示するものです。

この度、韓国　朴裁旭（パクチュウ）前陸軍参謀政訓監から、東京日韓親善協会連合会梁東準（ヤントンジュン）常任理事に対し、日本での写真展開催につき了承を得て開催の運びとなったものです。

東京日韓親善協会連合会　会長 **保坂三蔵**

東京都写真美術館　B1展示室



お願い　●場内混雑の場合はお待ちいただくこともあります。●場内での写真・ビデオ撮影はかたくお断りいたします。